
魔法少女リリカルなのは～僕は 私は 君を～

十六夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 僕は 君を

【Nコード】

N2372BA

【作者名】

十六夜

【あらすじ】

少年が少女と出会ったことで全てが狂いだした・・・狂いだした歯車はどこへ向かうのだろうか・・・さあ、物語の序曲を始めようじゃないか

プロローグ(前書き)

はじめまして、とりあえずこの作品は作者の処女作です。なのでいろいろと変な部分があります頑張りますので温かく見守って下さい
(笑)

プロローグ

「はぁ、はぁ、はぁ」

少年は走っていた。

その少年は真っ赤に染まっている。それは血だ。決して自分のではなく今まで切ってきた人間の血だ。

「居たぞ！追え！」

「ち、もう見つかったか。何人で探しに来てんだよ」

少年は走るのを諦め逆走し追っ手に向かって行った。追っ手は少年に銃を乱射してきた。少年は帯刀していた刀を抜刀し迫ってくる銃弾を切り落としながら接近し相手の銃を切っていた。

「退け。命を取るつもりはない。これ以上戦闘を続けるのなら次は首を切り落とす」

少年は静かな声で言った。しかし相手は攻撃を続けており言葉は無意味だった。

「馬鹿が・・・」

少年はためらうことなく刀で次々に敵を切っていた。

最後の一人を仕留めて少年は刀を鞘に戻した。辺りは血が飛び散っており死体がたくさんあった。

「ふう……」

少年がため息をすると

「君にしては手間取っているじゃないか」

ボロボロのローブを纏ったゆらめく影のような人物が突如現れた。

「何だい。カール」

「ただ単に親友の姿を見に來ただけだよ。それとマルグリットが早く君に 会いたがっているよ。ああ、まったく妬けてしまうな」

この芝居がかかった言動を他の人間は不快と感じるが少年はそこまで感じてはいなかった。底知れぬ印象があるのは間違いないだろうとしか思っただけだった。

「またいつか会いに行くよ。彼女が必要になるからね」

「マルグリットは君と一緒に居ないと不安定だ。君しか見ていない」

「俺が行くまでカールと一緒に居てくれ」

そう言っただけ少年は歩き始めた。

「これからどこに行くんだ？」

「さあね。ぶらぶら旅をして当分休息をするよ」

「ああ、そうか。面白いことが起きるのを期待しているよ。それでは良い旅を」

カールと呼ばれた人物は消えていった。

「さて、どこへ行くかな」と

少年は暗闇の中へ姿を消した。

出会い（前書き）

短いかと思いますが頑張りました。

Dies 勢は少しずつ出てきますが本格的に活動するのはまだ先です。

出会い

海鳴市海鳴臨海公園でとある少年はベンチに座っていた。

「ここは平和だな・・・」

太陽も落ちてきてる夕方、少年は海を見ながら黄昏ていた。周囲を見回すと遊んでいた子供たちも門限があるのだろうか、帰り始めていた。そんな中、帰る気配もなく少年と同じくずっとベンチに座っている少女がいた。他の子供たちが居なくなっても少女はまだ座っていた。少年は少女がなぜだか気になり近づいて行った。

「君は帰らないのかい？」

「えっ？」

少女は突然話しかけられて驚いていた。顔を上げると自分と同じ髪の色で肩まで伸びており中性的な顔立ちの人物だった。

「皆帰ってるよ。君はどうするの？」

「家に帰っても誰もいないからいいの……」

「そうか」

今度は逆に少女が少年に質問した。

「あなたは帰らなくていいの？」

「僕は旅をされていてね、たまたまこの町に来たんだ。だから帰るところはないよ」

「だったら私の家に来ない？」

「出会ったばかりの人間を家に入れようとするなんて何考えてんだ」

「ねえ、いいでしょ」

「うっ」

少女は少し涙ぐんで言い少年は心を揺さぶられた。

「ふう、分かったよ。行こう」

「やった！」

少女は涙ぐんでた顔から急に満面の笑みに変わった。

「あっ名前まだ言っただけで無かったよね？私は高町なのは。あなたは？」

「僕は………ナギサ………ナギサ・ライヒハートだよ」

「よろしくね！ナギサくん！」

「ああ、よろしく。なのは」

なのははナギサの手を取って歩きだした。

これが二人の出会いだった。

出会い（後書き）

次回、黄昏がでるかも？

てか黄昏が病んじやっていいのかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2372ba/>

魔法少女リリカルなのは～僕は 私は 君を～

2012年1月6日17時50分発行